

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	無期限
主投資対象	親投資信託である「しんきんアジア債券マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)の受益証券を主要投資対象とします。
運用方針	<p>①投資にあたっては、主としてマザーファンドの受益証券への投資を通じ、原則として以下の方針に基づき運用を行います。</p> <p>1) 新興国を含むアジア地域(日本を除く。)の外貨建ソブリン債券および準ソブリン債券への投資を通じ、アジア各国の債券に分散投資を行います。</p> <p>2) FTSEアジア国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)を参考として、投資環境、金利水準ならびに流動性等を勘案して、ポートフォリオの構築を図ります。</p> <p>3) 主にアジアの自国通貨建ソブリン債券、準ソブリン債券に投資するほか、米ドルなどの外国通貨建ソブリン債券・準ソブリン債券に投資する場合もあります。(米ドルなどの外国通貨建債券に投資した場合は、原則として、実質的に自国通貨建となるように外国為替予約取引等を行います。)</p> <p>②マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>③外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行いません。</p> <p>④市場動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
主投資制限	<p>①株式への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>②同一銘柄の株式への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>③同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>④投資信託証券(マザーファンドの受益証券は除きます)への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>⑤同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>⑥外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。</p>
収益分配方針	<p>毎決算時に原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます)等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、利子・配当等収益を中心に安定した収益分配を行うことを目指し、委託者が基準価額等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p>

運用報告書(全体版)

しんきんアジア債券ファンド (毎月決算型) 愛称：アジアの恵み

第98期(決算日：2020年8月20日)
第99期(決算日：2020年9月23日)
第100期(決算日：2020年10月20日)
第101期(決算日：2020年11月20日)
第102期(決算日：2020年12月21日)
第103期(決算日：2021年1月20日)


受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てに預かり厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「しんきんアジア債券ファンド(毎月決算型)」(愛称：アジアの恵み)は2021年1月20日に第103期の決算を行いました。

ここに、第98期から第103期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 しんきんアセットマネジメント投信株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号

<https://www.skam.co.jp>

■運用報告書に関しては、下記にお問い合わせください。

しんきんアセットマネジメント投信株式会社
 <コールセンター> ☎ 0120-781812
 (土日、休日を除く) 携帯電話・PHSからは03-5524-8181
 9:00~17:00

本資料は投資信託の運用状況を開示するためのものであり、ファンドの勧誘を目的とするものではありません。

目 次

◇しんきんアジア債券ファンド（毎月決算型）	頁
最近30期の運用実績	1
当作成期中の基準価額と市況等の推移	2
当作成期中（第98期～第103期）の運用経過等	3
1万口当たりの費用明細	6
売買及び取引の状況	8
利害関係人との取引状況等	8
第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況	8
自社による当ファンドの設定・解約状況	8
組入資産の明細	8
投資信託財産の構成	9
資産、負債、元本及び基準価額の状況	9
損益の状況	10
分配金のお知らせ	11
◇参考情報	
親投資信託の組入資産の明細	12
◇親投資信託の運用報告書	
しんきんアジア債券マザーファンド	14

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

○最近30期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 組 入 比	券 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 期 金 騰 落			
	円		円		%		百万円
74期(2018年8月20日)	7,962		80	△ 2.4	95.4		2,542
75期(2018年9月20日)	7,893		80	0.1	96.2		2,556
76期(2018年10月22日)	7,658		80	△ 2.0	96.2		2,545
77期(2018年11月20日)	7,842		80	3.4	97.2		2,604
78期(2018年12月20日)	7,825		80	0.8	97.6		2,608
79期(2019年1月21日)	7,790		60	0.3	97.1		2,624
80期(2019年2月20日)	7,937		60	2.7	97.8		2,669
81期(2019年3月20日)	7,953		60	1.0	96.5		2,689
82期(2019年4月22日)	7,994		60	1.3	97.0		2,719
83期(2019年5月20日)	7,669		60	△ 3.3	96.8		2,629
84期(2019年6月20日)	7,653		60	0.6	96.5		2,648
85期(2019年7月22日)	7,859		60	3.5	97.4		2,738
86期(2019年8月20日)	7,660		60	△ 1.8	96.8		2,726
87期(2019年9月20日)	7,752		60	2.0	97.4		2,774
88期(2019年10月21日)	7,775		60	1.1	97.4		2,804
89期(2019年11月20日)	7,799		40	0.8	96.7		2,823
90期(2019年12月20日)	7,863		40	1.3	97.2		2,840
91期(2020年1月20日)	8,046		40	2.8	97.7		2,898
92期(2020年2月20日)	8,127		40	1.5	97.7		2,917
93期(2020年3月23日)	7,156		40	△11.5	97.6		2,561
94期(2020年4月20日)	7,227		40	1.6	97.5		2,571
95期(2020年5月20日)	7,481		40	4.1	98.0		2,676
96期(2020年6月22日)	7,622		40	2.4	97.5		2,713
97期(2020年7月20日)	7,663		40	1.1	98.0		2,695
98期(2020年8月20日)	7,667		40	0.6	98.1		2,688
99期(2020年9月23日)	7,563		40	△ 0.8	97.3		2,645
100期(2020年10月20日)	7,580		40	0.8	97.6		2,650
101期(2020年11月20日)	7,640		40	1.3	97.1		2,671
102期(2020年12月21日)	7,661		40	0.8	97.2		2,657
103期(2021年1月20日)	7,631		40	0.1	97.5		2,646

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しています。

(注3) 当ファンドは、新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の外貨建ソブリン債券および準ソブリン債券へ投資することにより、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指していますが、特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

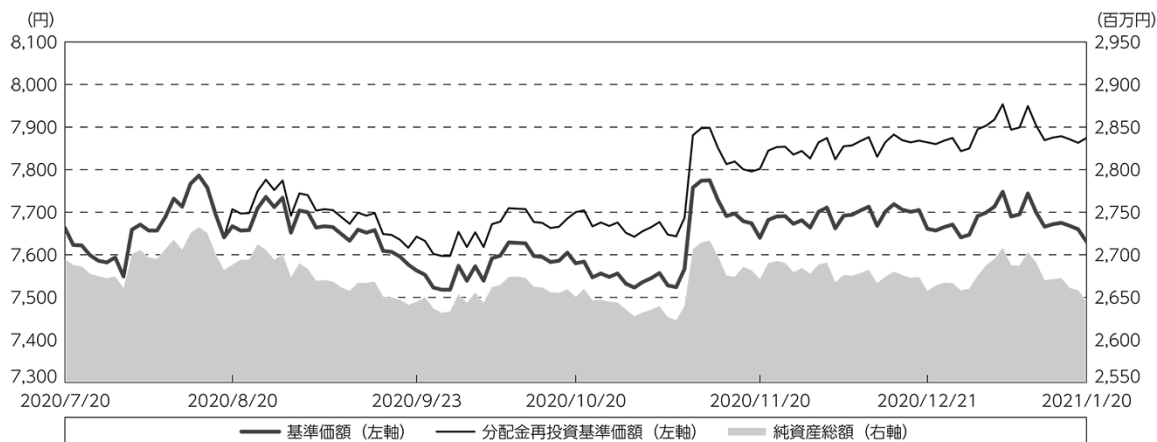
決 算 期	年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比 率
			騰 落	率	
第98期	(期 首) 2020年 7月20日	円 7,663		% —	% 98.0
	7月末	7,549	△1.5		97.7
	(期 末) 2020年 8月20日	7,707		0.6	98.1
第99期	(期 首) 2020年 8月20日	7,667		—	98.1
	8月末	7,652	△0.2		97.8
	(期 末) 2020年 9月23日	7,603	△0.8		97.3
第100期	(期 首) 2020年 9月23日	7,563		—	97.3
	9月末	7,574	0.1		97.0
	(期 末) 2020年10月20日	7,620	0.8		97.6
第101期	(期 首) 2020年10月20日	7,580		—	97.6
	10月末	7,536	△0.6		97.3
	(期 末) 2020年11月20日	7,680	1.3		97.1
第102期	(期 首) 2020年11月20日	7,640		—	97.1
	11月末	7,681	0.5		97.1
	(期 末) 2020年12月21日	7,701	0.8		97.2
第103期	(期 首) 2020年12月21日	7,661		—	97.2
	12月末	7,699	0.5		96.5
	(期 末) 2021年 1月20日	7,671	0.1		97.5

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しています。

○当作成期中（第98期～第103期）の運用経過等（2020年7月21日～2021年1月20日）

<当作成期中の基準価額等の推移>



(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2020年7月20日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

<基準価額の主な変動要因>

当ファンドは、親投資信託である「しんきんアジア債券マザーファンド」を通じて、新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の国債を中心とした外貨建債券へ分散投資を行っています。

当作成期における基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

<上昇要因>

- ・投資しているアジア各国の債券の金利収入を得たこと。
- ・新型コロナウイルスのワクチン実用化の進展によるリスク選好の強まりや、世界各国の中央銀行が緩和的な金融政策を継続、アジア各国へ資金流入傾向となったことにより、インドネシアルピア、フィリピンペソを除くアジア各国の通貨が対円で上昇したこと。
- ・世界的な金融緩和環境や、中央銀行による国債の直接購入などにより、インドネシア国債金利が低下（債券価格は上昇）したこと。

<下落要因>

- ・米国大統領選挙および議会選挙でバイデン候補、民主党が勝利したことから、米国長期金利が上昇し、その影響からフィリピン、タイ、シンガポールの金利が上昇（債券価格は下落）したこと。

＜投資環境＞

（債券市況：アジア圏）

当作成期初は、世界的に新型コロナウイルスの感染拡大が続き、金融緩和政策が継続されたことから、金利は低下基調で推移しました。その後、ワクチン開発進展の報道により、株価が堅調に推移するなど、リスク選好の動きが強まったことや、2020年11月の米国の大統領選挙および議会選挙ではバイデン候補と民主党が勝利し、財政拡大期待の高まりを受けて、米国金利が上昇しました。アジア各国の金利も影響を受け、フィリピン、タイ、シンガポールおよび韓国の金利は上昇、マレーシアの金利は横ばいとなりましたが、中央銀行による国債購入を行うインドネシアの金利は低下となりました。

（為替市況：アジア圏）

当作成期初から、世界的な金融緩和環境により、アジア各国へ資金流入傾向となったことやワクチンの開発進展への期待の高まりからリスク選好が強まり、安全通貨であるドルや円が売られたことから、アジア各国の通貨はおおむね上昇となりました。しかし、中央銀行による国債の直接購入が行われるなど、中央銀行の独立性に懸念が強まったインドネシアルピアやインフレが予想を上回るフィリピンペソは横ばいとなりました。

＜当ファンドのポートフォリオ＞

当ファンドは、親投資信託である「しんきんアジア債券マザーファンド」の受益証券への投資を通じ、外貨建資産の組入比率が高位となるように調整しています。

●しんきんアジア債券マザーファンド

FTSEアジア国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）を参考として、投資環境、金利水準および流動性等を勘案し、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポールおよびタイの6か国のソブリン債、準ソブリン債を投資対象とし、各国の現地通貨建国債を組み入れています。当作成期を通じて、当該債券の組入比率が高位となるように運用を行いました。

6か国の組入比率については、おおむねインドネシア29%程度、マレーシア24%程度、フィリピン19%程度、シンガポール・タイ14%程度および韓国0%としました。

＜当ファンドのベンチマークとの差異＞

当ファンドは、「しんきんアジア債券マザーファンド」を通じ、FTSEアジア国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）を参考として、新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の外貨建ソブリン債および準ソブリン債を投資対象としていますが、組入国および国別比率については、当社独自の判断で運用を行っているため、比較対象となるベンチマークおよび参考指標はありません。

<分配金>

収益分配金については、毎月安定した分配金を支払うことを目指し、当作成期中は、経費控除後の利子・配当等収益や基準価額水準等を勘案して、各期40円（1万口当たり、税込み）とし、合計で240円としました。

なお、収益分配に充てなかった部分については、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第98期	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
	2020年7月21日～ 2020年8月20日	2020年8月21日～ 2020年9月23日	2020年9月24日～ 2020年10月20日	2020年10月21日～ 2020年11月20日	2020年11月21日～ 2020年12月21日	2020年12月22日～ 2021年1月20日
当期分配金	40	40	40	40	40	40
（対基準価額比率）	0.519%	0.526%	0.525%	0.521%	0.519%	0.521%
当期の収益	21	18	19	23	22	15
当期の収益以外	18	21	20	16	17	24
翌期繰越分配対象額	500	479	459	442	425	400

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

<今後の運用方針>

当ファンドは、「しんきんアジア債券マザーファンド」の受益証券への投資を通じ、外貨建資産の組入比率が高位となるように調整していきます。

●しんきんアジア債券マザーファンド

ポートフォリオ組入国は、金利水準および流動性を考慮し、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポールおよびタイの5か国構成とします。組入銘柄は、引き続き現地通貨建国債の組入れを維持します。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年7月21日～2021年1月20日)

項 目	第98期～第103期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 53	% 0.693	(a)信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(19)	(0.250)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(32)	(0.416)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.028)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	5	0.060	(b)その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(5)	(0.060)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の 送金・資産の移転等に要する費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	58	0.753	
作成期間の平均基準価額は、7,615円です。			

(注1) 作成期間の費用（消費税等の掛かるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

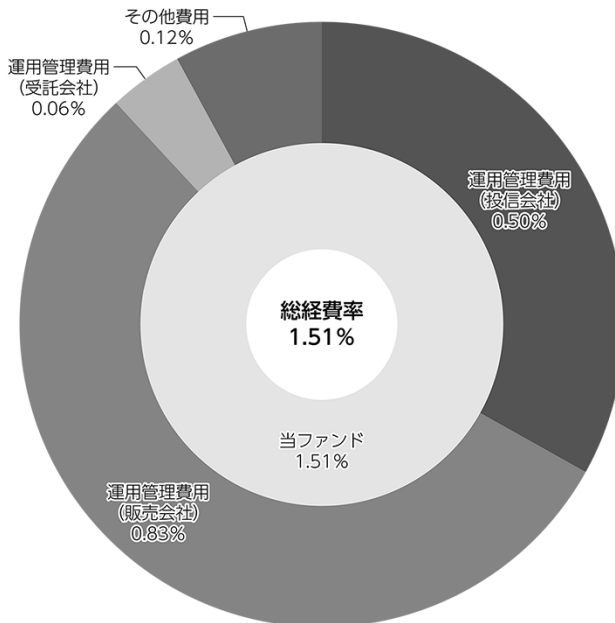
(注3) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

○総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.51%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2020年7月21日～2021年1月20日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘	柄	第98期～第103期			
		設		解	
		口	金	口	金
		数	額	数	額
		千口	千円	千口	千円
しんきんアジア債券マザーファンド		—	—	87,228	147,000

(注) 単位未满是切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2020年7月21日～2021年1月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況

(2020年7月21日～2021年1月20日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2020年7月21日～2021年1月20日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2021年1月20日現在)

親投資信託残高

銘	柄	第97期末		第103期末	
		口	数	口	数
			千口		千口
		千円	千円	千円	千円
しんきんアジア債券マザーファンド		1,617,138	1,529,909	2,637,105	

(注) 口数・評価額の単位未满是切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2021年1月20日現在)

項 目	第103期末	
	評 価 額	比 率
しんきんアジア債券マザーファンド	千円 2,637,105	% 98.6
コール・ローン等、その他	37,978	1.4
投資信託財産総額	2,675,083	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) しんきんアジア債券マザーファンドにおいて、当作成期末における外貨建純資産(2,635,624千円)の投資信託財産総額(2,637,042千円)に対する比率は99.9%です。

(注3) 外貨建資産は、当作成期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2021年1月20日現在、1ドル=103.93円、1シンガポールドル=78.28円、1マレーシアリンギット=25.68円、1タイバーツ=3.47円、1フィリピンペソ=2.16円、100インドネシアルピア=0.74円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第98期末	第99期末	第100期末	第101期末	第102期末	第103期末
	2020年8月20日現在	2020年9月23日現在	2020年10月20日現在	2020年11月20日現在	2020年12月21日現在	2021年1月20日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	2,711,814,984	2,662,878,920	2,673,206,418	2,694,275,847	2,680,295,423	2,675,083,691
コール・ローン等	24,162,908	38,894,849	26,531,156	42,042,895	28,759,997	37,978,443
しんきんアジア債券マザーファンド(評価額)	2,677,652,076	2,623,984,071	2,646,675,262	2,652,232,952	2,651,535,426	2,637,105,248
未収入金	10,000,000	-	-	-	-	-
(B) 負債	23,576,990	17,862,182	22,706,633	22,763,392	22,723,684	28,807,270
未払収益分配金	14,025,525	13,988,928	13,985,904	13,987,311	13,876,251	13,870,631
未払解約金	6,402,661	448,904	6,020,217	5,673,927	5,721,194	11,908,780
未払信託報酬	3,148,484	3,423,747	2,700,313	3,101,984	3,125,996	3,027,426
未払利息	55	67	67	105	65	86
その他未払費用	265	536	132	65	178	347
(C) 純資産総額(A-B)	2,688,237,994	2,645,016,738	2,650,499,785	2,671,512,455	2,657,571,739	2,646,276,421
元本	3,506,381,325	3,497,232,061	3,496,476,180	3,496,827,763	3,469,062,989	3,467,657,803
次期繰越損益金	△ 818,143,331	△ 852,215,323	△ 845,976,395	△ 825,315,308	△ 811,491,250	△ 821,381,382
(D) 受益権総口数	3,506,381,325口	3,497,232,061口	3,496,476,180口	3,496,827,763口	3,469,062,989口	3,467,657,803口
1万口当たり基準価額(C/D)	7,667円	7,563円	7,580円	7,640円	7,661円	7,631円

(注1) 当ファンドの第98期首元本額は3,516,831,758円、当作成期中(第98期～第103期)における追加設定元本額は250,278,525円、同一部解約元本額は299,452,480円です。

(注2) 1口当たり純資産額は、第98期0.7667円、第99期0.7563円、第100期0.7580円、第101期0.7640円、第102期0.7661円、第103期0.7631円です。

○損益の状況

項 目	第98期	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
	2020年7月21日～ 2020年8月20日	2020年8月21日～ 2020年9月23日	2020年9月24日～ 2020年10月20日	2020年10月21日～ 2020年11月20日	2020年11月21日～ 2020年12月21日	2020年12月22日～ 2021年1月20日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	△ 1,416	△ 1,701	△ 1,845	△ 1,838	△ 1,757	△ 1,491
支払利息	△ 1,416	△ 1,701	△ 1,845	△ 1,838	△ 1,757	△ 1,491
(B) 有価証券売買損益	18,309,893	△ 18,685,527	22,742,830	37,309,739	24,175,479	6,577,787
売買益	18,447,564	54,992	22,726,669	37,810,884	24,302,474	6,594,990
売買損	△ 137,671	△ 18,740,519	16,161	△ 501,145	△ 126,995	△ 17,203
(C) 信託報酬等	△ 3,148,796	△ 3,424,409	△ 2,700,625	△ 3,102,049	△ 3,126,206	△ 3,027,863
(D) 当期損益金 (A + B + C)	15,159,681	△ 22,111,637	20,040,360	34,205,852	21,047,516	3,548,433
(E) 前期繰越損益金	△207,066,314	△196,303,917	△222,944,211	△206,054,206	△176,943,279	△161,666,713
(F) 追加信託差損益金	△612,211,173	△619,810,841	△629,086,640	△639,479,643	△641,719,236	△649,392,471
(配当等相当額)	(181,927,254)	(175,167,074)	(167,608,242)	(160,530,467)	(153,545,404)	(147,423,752)
(売買損益相当額)	(△794,138,427)	(△794,977,915)	(△796,694,882)	(△800,010,110)	(△795,264,640)	(△796,816,223)
(G) 計 (D + E + F)	△804,117,806	△838,226,395	△831,990,491	△811,327,997	△797,614,999	△807,510,751
(H) 収益分配金	△ 14,025,525	△ 13,988,928	△ 13,985,904	△ 13,987,311	△ 13,876,251	△ 13,870,631
次期繰越損益金 (G + H)	△818,143,331	△852,215,323	△845,976,395	△825,315,308	△811,491,250	△821,381,382
追加信託差損益金	△618,560,890	△627,406,402	△636,206,255	△645,329,909	△647,823,899	△657,913,390
(配当等相当額)	(175,625,300)	(167,644,511)	(160,514,329)	(154,774,267)	(147,483,423)	(138,945,664)
(売買損益相当額)	(△794,186,190)	(△795,050,913)	(△796,720,584)	(△800,104,176)	(△795,307,322)	(△796,859,054)
繰越損益金	△199,582,441	△224,808,921	△209,770,140	△179,985,399	△163,667,351	△163,467,992

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<分配金の計算過程>

第98期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (7,489,738円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0.0円)、信託約款に規定する収益調整金 (181,975,017円)および分配準備積立金 (186,070円)より分配対象収益は189,650,825円 (10,000口当たり540円)であり、うち14,025,525円 (10,000口当たり40円)を分配金額としています。

第99期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (6,393,367円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0.0円)、および信託約款に規定する収益調整金 (175,240,072円)より分配対象収益は181,633,439円 (10,000口当たり519円)であり、うち13,988,928円 (10,000口当たり40円)を分配金額としています。

第100期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (6,866,289円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0.0円)、および信託約款に規定する収益調整金 (167,633,944円)より分配対象収益は174,500,233円 (10,000口当たり499円)であり、うち13,985,904円 (10,000口当たり40円)を分配金額としています。

第101期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (8,137,045円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0.0円)、および信託約款に規定する収益調整金 (160,624,533円)より分配対象収益は168,761,578円 (10,000口当たり482円)であり、うち13,987,311円 (10,000口当たり40円)を分配金額としています。

第102期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (7,771,588円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0.0円)、および信託約款に規定する収益調整金 (153,588,086円)より分配対象収益は161,359,674円 (10,000口当たり465円)であり、うち13,876,251円 (10,000口当たり40円)を分配金額としています。

第103期計算期間末における費用控除後の配当等収益 (5,349,712円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0.0円)、および信託約款に規定する収益調整金 (147,466,583円)より分配対象収益は152,816,295円 (10,000口当たり440円)であり、うち13,870,631円 (10,000口当たり40円)を分配金額としています。

○分配金のお知らせ

	第98期	第99期	第100期	第101期	第102期	第103期
1万円当たり分配金(税込み)	40円	40円	40円	40円	40円	40円

◇分配金を再投資される場合のお手取分配金は、自動けいぞく投資約款の規定に基づき、各決算日の翌営業日に再投資いたしました。

◇分配金をお受け取りになる場合の分配金は、各決算日から起算して5営業日目までにお支払いを開始しています。

◇分配金のお取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

(注1) 分配金は、分配後の基準価額と各受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)があります。分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は全額が「普通分配金」となります。分配後の基準価額を下回る場合は、下回る部分に相当する金額が「元本払戻金(特別分配金)」、残りの部分が「普通分配金」となります。

(注2) 個人の受益者の場合、収益分配金のうち、課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%)の税率が適用されます。

(注3) 法人の受益者の場合、収益分配金のうち、課税扱いとなる普通分配金については、15.315%(所得税15%および復興特別所得税0.315%)が源泉徴収されます。

(注4) 当ファンドは少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA(ニーサ)」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

(注5) 税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

○（参考情報）親投資信託の組入資産の明細

(2021年1月20日現在)

＜しんきんアジア債券マザーファンド＞

下記は、しんきんアジア債券マザーファンド全体(1,529,909千口)の内容です。

外国公社債

(A)外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	第103期末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
シンガポール	千シンガポールドル 3,650	千シンガポールドル 4,284	千円 335,386	% 12.7	% —	% 12.7	% —	% —
マレーシア	千マレーシアリンギット 22,300	千マレーシアリンギット 25,064	643,647	24.4	—	20.1	4.3	—
タイ	千タイバーツ 95,000	千タイバーツ 100,593	349,059	13.2	—	10.1	3.2	—
フィリピン	千フィリピンペソ 170,000	千フィリピンペソ 200,971	434,099	16.5	—	8.5	2.9	5.1
インドネシア	千インドネシアルピア 104,400,000	千インドネシアルピア 110,695,354	819,145	31.1	—	31.1	—	—
合 計	—	—	2,581,338	97.9	—	82.4	10.4	5.1

(注1) 邦貨換算金額は、2021年1月20日現在の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、このファンドが組み入れている親投資信託の純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 単位未満は切り捨て。

(注4) —印は組み入れなし。

(注5) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B)外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	柄	第103期末				償還年月日	
		利率	額面金額	評価額			
				外貨建金額	邦貨換算金額		
シンガポール		%	千シンガポールドル	千シンガポールドル	千円		
	国債証券	SIGB 2.875 09/01/30	2.875	2,450	2,882	225,651	2030/9/1
		SIGB 3.500 03/01/27	3.5	1,200	1,401	109,734	2027/3/1
小	計					335,386	
マレーシア			千マレーシアリンギット	千マレーシアリンギット			
	国債証券	MGS 3.885 08/15/29	3.885	1,700	1,854	47,628	2029/8/15
		MGS 4.181 07/15/24	4.181	4,100	4,410	113,255	2024/7/15
		MGS 4.498 04/15/30	4.498	16,500	18,799	482,762	2030/4/15
小	計					643,647	
タイ			千タイバーツ	千タイバーツ			
	国債証券	THAIGB 1.600 12/17/29	1.6	74,000	76,431	265,217	2029/12/17
		THAIGB 3.850 12/12/25	3.85	21,000	24,162	83,842	2025/12/12
小	計					349,059	
フィリピン			千フィリピンペソ	千フィリピンペソ			
	国債証券	RPGB 4.125 08/20/24	4.125	33,000	35,172	75,972	2024/8/20
		RPGB 5.375 03/01/27	5.375	24,000	27,540	59,487	2027/3/1
		RPGB 5.750 11/24/21	5.75	60,000	62,109	134,157	2021/11/24
		RPGB 8.000 07/19/31	8.0	53,000	76,148	164,481	2031/7/19
小	計					434,099	
インドネシア			千インドネシアルピア	千インドネシアルピア			
	国債証券	INDOGB 10.250 07/15/27	10.25	24,700,000	30,098,086	222,725	2027/7/15
		INDOGB 6.125 05/15/28	6.125	59,500,000	59,362,079	439,279	2028/5/15
		INDOGB 7.000 05/15/27	7.0	20,200,000	21,235,189	157,140	2027/5/15
小	計					819,145	
合	計					2,581,338	

(注1) 邦貨換算金額は、2021年1月20日現在の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 額面・評価額の単位未満は切り捨て。

運用報告書

親投資信託

しんきんアジア債券マザーファンド

第9期

(決算日：2020年7月20日)

しんきんアジア債券マザーファンドの第9期に係る運用状況をご報告申し上げます。

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
主要投資対象	アジア各国のソブリン債券および準ソブリン債券を主要投資対象とします。
運用方針	<p>①新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の外貨建てソブリン債券および準ソブリン債券への投資を通じ、アジア各国の債券に分散投資を行います。</p> <p>②FTSEアジア国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）を参考として、投資環境、金利水準ならびに流動性等を勘案して、ポートフォリオの構築を図ります。</p> <p>③主にアジアの自国通貨建てソブリン債券、準ソブリン債券に投資するほか、米ドルなどの外国通貨建てソブリン債券・準ソブリン債券に投資する場合があります。（米ドルなどの外国通貨建て債券に投資した場合は、原則として、実質的に自国通貨建てとなるように外国為替予約取引等を行います。）</p> <p>④外貨建資産の組入比率については、原則として高位を保ちます。</p> <p>⑤外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。</p> <p>⑥市況動向あるいは資金動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
投資制限	<p>①株式への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>②同一銘柄の株式への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>③同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>④投資信託証券への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>⑤同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>⑥外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</p>

○最近5期の運用実績

決算期	基準	価額		債組入比率	券率	純資産額
		騰落	中率			
	円		%		%	百万円
5期(2016年7月20日)	14,385	△8.0		98.5		1,868
6期(2017年7月20日)	14,917	3.7		97.4		2,021
7期(2018年7月20日)	14,636	△1.9		96.4		2,587
8期(2019年7月22日)	15,711	7.3		97.6		2,731
9期(2020年7月20日)	16,655	6.0		98.0		2,693

(注) 当ファンドは、新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の外貨建ソブリン債券および準ソブリン債券へ投資することにより、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指していますが、特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準	価額		債組入比率	券率
		騰落	率		
(期首) 2019年7月22日	円		%		%
	15,711		—		97.6
7月末	15,790		0.5		97.5
8月末	15,409		△1.9		97.3
9月末	15,653		△0.4		97.7
10月末	16,154		2.8		97.4
11月末	16,255		3.5		97.1
12月末	16,444		4.7		97.6
2020年1月末	16,653		6.0		98.0
2月末	16,608		5.7		98.2
3月末	15,010		△4.5		98.1
4月末	15,531		△1.1		97.9
5月末	16,180		3.0		98.4
6月末	16,657		6.0		97.9
(期末) 2020年7月20日	16,655		6.0		98.0

(注) 騰落率は期首比です。

○第9期の運用経過等（2019年7月23日～2020年7月20日）

<当期中の基準価額等の推移>



当ファンドは、新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の国債を中心とした外貨建債券へ分散投資を行っています。

当期の基準価額は上昇しました。基準価額の変動要因は、以下のとおりです。

<上昇要因>

- ・投資しているアジア各国の債券の金利収入を得たこと。
- ・2019年8月から12月にかけて、米国の利下げの影響やアジアでも多くの国が利下げを実施し、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの金利が低下（債券価格は上昇）したこと。
- ・2019年12月から2020年1月にかけて、米中貿易協議の進展観測が強まったことや、第1段階合意などを受けて、リスク選好が高まり、アジア各国の通貨が円に対して上昇したこと。
- ・2020年4月から当期末にかけて、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて、米国、欧州、アジア各国の中央銀行が利下げなど金融緩和策強化を実施したことや、各国政府が景気下支え政策を実施し、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポールおよびタイの金利が低下したこと。

<下落要因>

- ・2019年7月から8月にかけて、米中貿易協議で対立が激化し、アジア各国の通貨が対円で下落したこと。
- ・2020年2月から3月まで新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、リスク回避の動きからアジア各国から資金が流出し、アジア各国の通貨が対円で下落したことや、アジア各国の債券価格が下落（金利は上昇）したこと。

＜投資環境＞

（債券市況：アジア圏）

- ・米国では、2019年7月、米連邦準備制度理事会（FRB）がそれまでの政策金利据え置き姿勢から、利下げに転じ、米中貿易摩擦による景気低迷を下支えするため、アジアでもインドネシア、フィリピン、タイおよび韓国が利下げを行いました。さらに米中貿易協議進展を受けて、リスク選好の高まりもあり、2020年1月まで、韓国を除くアジア各国の金利は低下基調となっていました。2月、新型コロナウイルスの感染が中国からアジア、欧米へ広がりを見せる中、リスク回避の動きが強まり、アジア各国の金利は上昇となりました。しかし、米国や欧州、アジア各国で中央銀行が利下げなどで金融緩和策を強化したこと、各国政府が経済対策を実施したことから4月以降、金利は再度低下し、前期末比ではおおむね金利低下となりました。

（為替市況：アジア圏）

- ・当初は米中貿易協議で対立が激化したことから、円高米ドル安となり、アジア各国の通貨も対円で下落となりましたが、FRBが利下げを行い株価が上昇、世界経済も持ち直し観測が高まったことや、米中貿易協議が第1段階合意に達し、世界的に緩和的な金融環境もあり、2020年1月までリスク選好の動きからアジア各国の通貨は対円で上昇となりました。しかし、2月以降、世界的な新型コロナウイルス感染拡大を受けて、円高米ドル安となり、アジア各国の通貨に対しても円高に転じ、フィリピンペソを除く、インドネシアルピア、マレーシアリングgit、タイバーツ、シンガポールドルおよび韓国ウォンは前期末比、対円で下落となりました。

＜当ファンドのポートフォリオ＞

FTSEアジア国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）を参考として、投資環境、金利水準および流動性等を勘案し、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポールおよびタイの6か国のソブリン債、準ソブリン債を投資対象とし、各国の現地通貨建国債を組み入れています。当期を通じて、当該債券の組入比率が高位となるように運用を行いました。

6か国の組入比率については、おおむねインドネシア29%程度、マレーシア24%程度、フィリピン19%程度、シンガポール・タイ14%程度、韓国0%としました。

＜当ファンドのベンチマークとの差異＞

当ファンドは、FTSEアジア国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）を参考として、新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の外貨建ソブリン債および準ソブリン債を投資対象としていますが、組入国および国別比率については、当社独自の判断で運用を行っているため、比較対象となるベンチマークおよび参考指標はありません。

＜今後の運用方針＞

ポートフォリオ組入国は、金利水準、流動性を考慮し、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポールおよびタイの5か国構成とします。組入銘柄は、引き続き現地通貨建国債の組入れを維持します。

○1万口当たりの費用明細

(2019年7月23日～2020年7月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円 23	% 0.140	(a)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(19)	(0.116)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ そ の 他 ）	(4)	(0.024)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	23	0.140	
期中の平均基準価額は、16,028円です。			

(注1) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2019年7月23日～2020年7月20日)

公社債

			買 付 額	売 付 額
外	シンガポール	国債証券	千シンガポールドル 442	千シンガポールドル 847
	マレーシア	国債証券	千マレーシアリングgit 1,068	千マレーシアリングgit -
	タイ	国債証券	千タイバーツ 54,034	千タイバーツ 65,229
国	フィリピン	国債証券	千フィリピンペソ -	千フィリピンペソ 5,173
	インドネシア	国債証券	千インドネシアルピア 3,954,000	千インドネシアルピア 6,651,250

(注1) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれていません。)

(注2) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2019年7月23日～2020年7月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2020年7月20日現在)

外国公社債

(A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
シンガポール	千シンガポールドル 3,800	千シンガポールドル 4,466	千円 345,522	% 12.8	% —	% 11.8	% 1.1	% —
マレーシア	千マレーシアリンギット 24,000	千マレーシアリンギット 26,888	677,859	25.2	—	17.7	7.5	—
タイ	千タイバーツ 93,000	千タイバーツ 101,128	341,813	12.7	—	12.7	—	—
フィリピン	千フィリピンペソ 184,000	千フィリピンペソ 220,129	477,681	17.7	—	8.6	2.9	6.3
インドネシア	千インドネシアルピア 106,100,000	千インドネシアルピア 107,740,926	797,282	29.6	—	29.6	—	—
合 計	—	—	2,640,159	98.0	—	80.4	11.4	6.3

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 単位未満は切り捨て。

(注4) 一印は組み入れなし。

(注5) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータ入手しています。

(B) 外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄			当 期 末				償還年月日
			利 率	額面金額	評 価 額		
				外貨建金額	邦貨換算金額		
シンガポール			%	千シンガポールドル	千シンガポールドル	千円	
	国債証券	SIGB 2.875 09/01/30	2.875	2,250	2,677	207,093	2030/9/1
		SIGB 3.125 09/01/22	3.125	350	371	28,704	2022/9/1
		SIGB 3.500 03/01/27	3.5	1,200	1,418	109,723	2027/3/1
小	計					345,522	
マレーシア				千マレーシアリンギット	千マレーシアリンギット		
	国債証券	MGS 3.480 03/15/23	3.48	2,900	3,012	75,937	2023/3/15
		MGS 4.181 07/15/24	4.181	4,600	4,960	125,047	2024/7/15
		MGS 4.498 04/15/30	4.498	16,500	18,916	476,873	2030/4/15
小	計					677,859	
タイ				千タイバーツ	千タイバーツ		
	国債証券	THAIGB 1.600 12/17/29	1.6	52,000	53,704	181,522	2029/12/17
		THAIGB 3.850 12/12/25	3.85	41,000	47,423	160,291	2025/12/12
小	計					341,813	
フィリピン				千フィリピンペソ	千フィリピンペソ		
	国債証券	RPGB 4.125 08/20/24	4.125	33,000	35,501	77,037	2024/8/20

しんきんアジア債券マザーファンド ー第9期ー

銘柄	当 期 末					
	利 率	額面金額	評 価 額		償還年月日	
			外貨建金額	邦貨換算金額		
フィリピン	%	千フィリピンペソ	千フィリピンペソ	千円		
国債証券	RPG 5.375 03/01/27	5.375	24,000	28,422	61,676	2027/3/1
	RPG 5.750 11/24/21	5.75	74,000	77,810	168,848	2021/11/24
	RPG 8.000 07/19/31	8.0	53,000	78,395	170,118	2031/7/19
小 計					477,681	
インドネシア		千インドネシアルピア	千インドネシアルピア			
国債証券	INDOGB 10.250 07/15/27	10.25	24,700,000	29,306,475	216,867	2027/7/15
	INDOGB 6.125 05/15/28	6.125	59,500,000	56,332,160	416,857	2028/5/15
	INDOGB 7.000 05/15/27	7.0	21,900,000	22,102,290	163,556	2027/5/15
小 計					797,282	
合 計					2,640,159	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 額面・評価額の単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2020年7月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 2,640,159	% 98.0
コール・ローン等、その他	53,234	2.0
投資信託財産総額	2,693,393	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産 (2,692,575千円) の投資信託財産総額 (2,693,393千円) に対する比率は100.0%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2020年7月20日現在、1ドル=107.52円、1シンガポールドル=77.35円、1マレーシアリングギット=25.21円、1タイバーツ=3.38円、1フィリピンペソ=2.17円、100インドネシアルピア=0.74円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年7月20日現在)

項 目	当 期 末	円
(A) 資産	2,703,393,357	
コール・ローン等	31,157,253	
公社債(評価額)	2,640,159,479	
未収入金	10,000,000	
未収利息	21,956,315	
前払費用	120,310	
(B) 負債	10,001,861	
未払金	10,001,860	
未払利息	1	
(C) 純資産総額(A-B)	2,693,391,496	
元本	1,617,138,307	
次期繰越損益金	1,076,253,189	
(D) 受益権総口数	1,617,138,307口	
1万口当たり基準価額(C/D)	16,655円	

(注1) 当親投資信託の期首元本額は1,738,696,618円、期中追加設定元本額は39,008,207円、期中一部解約元本額は160,566,518円です。

(注2) 当親投資信託を投資対象とする投資信託の当期末元本額は、しんきんアジア債券ファンド(毎月決算型)1,617,138,307円です。

(注3) 1口当たり純資産額は1.6655円です。

○損益の状況 (2019年7月23日～2020年7月20日)

項 目	当 期	円
(A) 配当等収益	113,695,124	
受取利息	113,698,357	
支払利息	△ 3,233	
(B) 有価証券売買損益	50,757,195	
売買益	142,305,081	
売買損	△ 91,547,886	
(C) 保管費用等	△ 3,806,183	
(D) 当期損益金(A+B+C)	160,646,136	
(E) 前期繰越損益金	993,048,742	
(F) 追加信託差損益金	20,991,793	
(G) 解約差損益金	△ 98,433,482	
(H) 計(D+E+F+G)	1,076,253,189	
次期繰越損益金(H)	1,076,253,189	

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。